

【日時】2022 年 12 月 16 日 (金) 18:30~21:20

【テーマ】アートを触媒に新たな状況を育み続けていくための実践

【講師】NPO 法人インビジブル理事長 林 暁甫先生

NPO 法人 BEPPU PROJECT のプロジェクトとして学生の頃よりボランティアとして参加し、新卒採用にて就職。企画運営に携わる。

2013 年に退職し、2015 年に NPO 法人インビジブルを設立。

◆NPO 法人インビジブル

inVisible とは？

→見えないものを可視化する。

アートを触媒にしたアートプロジェクトを展開し見えないものを可視化し続けることで、社会を動かす小さな変化を生み出し続けます。

1.価値観

アートを触媒に社会を彫刻し続けるクリエイティブプライス。

地域再生、都市開発、教育などさまざまな領域におけるプロジェクトの企画運営やアートプロジェクトを展開。

1) 日常にこそアートがある。

2) アートを触媒に物事を計画する姿勢

→NPO 法人を経営する上で、収益を作れるのか、ということも考えていかないとけないが、アートを触媒にできるかということが重要である。

3) 違いや個性の尊重とコミュニティ・エンゲージメント >多様な方々と協業することを意識している。

・法人概要

1) ラボ事業

→都市や地域が持つ可能性や顕在化されていない課題の発見。

2) 中間支援事業

→企業や行政が抱える課題を、アートを触媒としたプロジェクトによる解決を目指す。

3) その他関連する事業。

2. 「触媒」としてのアート

・触媒とは

→ 化学反応の前後でそれ自身は変化しないが、反応の速度を変化させる物質。水素と酸素から水を生じさせる際の白金黒(はっきんこく)など。反応を速くする触媒を正触媒、遅くする触媒を負触媒という。

出典：デジタル大辞泉

<https://www.webl.io/content/%E8%A7%A6%E5%AA%92>

◆ 学生時代の経験

高校生の時にメキシコへ移住。そのことをきっかけに様々な問題意識が芽生え、帰国し立命館アジア太平洋大学進学時から特にフェアトレードに興味を持つ。在学時にリサイクルショップやカフェの立上げと運営を経験。その後、大分県別府市にて開催される BEPPU PROJECT の展示やワークショップを知る。アートが美術館ではなく街で展開されることで、その場所をアートによって発掘されていくことに興味を持つ。アルバイト、インターンを経験し、そのまま就職。作品があることによって街の景色が変化し、それに影響を受け人々の行動も変わることがモチベーションとなっている。

・触媒としてのアートを捉える

アート体験(またはそのプロセス)によって生じた鑑賞者/参加者(または作者)の思考や視点に注目する。

→ 生まれた変化や課題解決にアプローチをしている

◆ PinS プロジェクト

<https://www.invisible.tokyo/pinsproject>

福島県双葉郡富岡町

主催：富岡町教育委員会、NPO 法人インビジブル

参考動画 <https://www.youtube.com/watch?v=UQD8pOpwFWY>

参考 HP <https://pinsproject.net/>

・ PinS プロジェクトの試み

- 1) アーティスト・イン・レジデンスのような取り組みから、学校(教育)のあり方に影響を与える。
- 2) 帰宅困難区域になっていたが、学校再開に伴い、再開後の学校のあり方を考える際に

PinS プロジェクトの構想を提案

3) 日常では出会えないような方に触れ、好奇心を育む環境を作る

・効果

1) 先生(大人)が変わっていく

2) 大人を真似たい子供が増えていく

3) アーティストがそこにいることによって、状況が変わっていく

アートと学校の関係が開かれて生きている

→アートが触媒になっている

◆社会彫刻家基金

国内大手クラウドファンディング企業であるモーションギャラリーと協業

参考動画 <https://www.youtube.com/watch?v=HPxdN9E3Sws>

・社会彫刻家基金の試み

アートは特定の社会や状況を変えうる可能性を持つものだとすることを証明する試み。社会を変えていることを進めている方々が対象となり、3名の調査選考委員が選定している。広島県広島市のボーダーレスアートスペース HAP が今回の受賞をきっかけに社会彫刻家ラボを設立。社会的な評価を得ることで、アイデンティティの獲得や、再確認ができる。

◆マインドスケープス東京

主催：ウェルカム・トラスト、NPO 法人インビジブル

ウェルカム・トラストとは、イギリスに本拠地を持つ医学研究支援等を目的とする公益信託団体。

<https://wellcome.org/>

・ウェルカム トラストの試み

現在、4人に1人はメンタルヘル스에課題を抱えていると言われていたほど、メンタルヘルスの課題は世界規模で大きな課題と考えられている。この問題の解決には科学的なアプローチだけでは十分ではないと考えるウェルカム・トラストは、世界4都市の美術館や文化団体と連携し「マインドスケープス」という事業を展開。インビジブルは東京のパートナーとして、2022年より「マインドスケープス東京」を展開。

<https://www.invisible.tokyo/mindscapestokyo>

- ・プログラム内容を考える上で考えたこと
 - 1) メンタルヘルスという言葉を使い直す
 - 2) 生きた経験
 - 経験を区別/差別しない言葉
 - 3) 関係性の構築
 - 信頼関係を築き話しやすい環境づくりとは

- ・コンビーニング

日本の「メンタルヘルス」多角的な視点から考えるための対話集会の映像はこちら。

<https://youtu.be/pPX2fVeNOhA>

https://youtu.be/_IGBRsjfwLQ

テーマ：ミュージアムやアートプロジェクトは「メンタルヘルスクリニック」になるのか

- ・UI 都市調査プロジェクト

アーティストとユースメンタルヘルスについて研究する共同調査

アーティスト＝リード調査員、学生＝ユース調査員、ユース＝撮影チームで編成されたチームが共同調査をスタート。みんなのアイデアを生かした作品をつくり、シェア、発表をおこなう。

マインドスケープス東京

<https://www.invisible.tokyo/mindscapestokyo>

YAU / 有楽町アートアーバニズム

<https://arturbanism.jp/>

3. 生じた変化のかけら

様々な粒度でみることを大切にしている

予測できる変化を拾いながら、予測できない変化に次の可能性を見出す。

- ・作るために壊す。

- 1) 既存の規範を壊すことにエネルギーを割くことが大切である

- 前者を否定することではないが、壊すことで創造が可能になる

- 2) 役割を増やす。

→コミュニティの中に役割を振り分け、多様性を担保している

3) 手間をかける。

→早く答えに辿り着かないことを大切にしている

何よりも自分が変化や生まれる状況を楽しむ

自分自身が楽しめているのかを大切にしている